

つくしだより



令和7年10月号

第17回みんなねっと京都大会

全体会の「ご報告

「精神保健福祉の未来を描く」

「家族ほっこりまるごと」

支援をめざして

都連副会長 本田 道子

今年は暑い京都での大会、と覚悟を決めての京都入り。

9月6日金曜日、一日限りの開催です。都連からは会長はじめ理事の7名が参加。全員が前日泊です。

今年は初めての試みで前日に交流会を開催。それぞれが交流会からの参加を目指していたのですが。

前日の5日は台風が、西の方から関東をめざして進行中。台風に向かってゆくことになり新幹線が途中で休みながらで、残念組も。

チーム別に分かれて全国からの参加者が語り合い、有意義なものになった、という報告がありました。

翌6日、京都テラス西館の会場がほぼ満席、七百名以上の参加者で埋まり、コーラスの歌声に導かれながら開会。岡田理事長、京都府知事、京都市長、地元京都府連のご挨拶の中で、印象的だったのは、京都市が「ケ

アラーム法」を制定されたばかりで、推進協議会、委員会などができ、動き出している、ということ。

東京都は未だ制定されてはいません。

続く基調講演が印象的でした。

講師は「高木俊介」氏。いつもの高木節です。今回は昨今の社会情勢について「憂いている。」

アメリカ、トランプさんの「移民排除」に始まり、いわゆる「日本人ファースト」今までの多様性のある社会作りとは真逆の流れ。これは突き詰めるところ、「優秀な日本人」だけ、

「社会に役立つ人間だけ」については「障害者は・・・」特に精神障がい者は居場所がなくなってく、という心配はないだろうか、と。

また、コロナで始まった面会制限にもふれ、コロナが収まった今もそのまま制限が続いていることで、「親の臨終にも立ち会えない」「身内の死を見届けることもかなわない」

一般病棟でも「感染予防」を名目に面会制限、外出制限がいまだに行われている。これは人権問題そのものの、人権侵害なのではないか、と。

もっと怖いのは、現場で働いている

医療職の人達に、人権侵害をしている、という意識がないこと、と。

このほか、国の規制緩和、民間活力導入、での一部上場企業がケアの場に参入、結局は撤退。

大きな企業は対人援助には向かない、小さな所で地道な対応が必要と。薬物療法の話、今後の家族会のあり方など、たくさんのプレゼンも。

また今回は家族会の誕生から60年となる記念の大会でした。奥丹後で始められた方の報告が京都府連から、岡田理事長からも60年の家族会の話、佐藤純氏のスピーチが続きます。厚生省からはあいも変わらず「にも包括」の話で、しかもラインで。

昨年度のみんなねっとの活動報告のあと、来年度は「長崎市」での開催呼びかけが続きます。

全体会はここで終了、閉会し、分科会へ移動。

各分科会のあとは流れ解散となりましたが、思いを胸に、こんな形もい

いな、と思いました。心配された暑さは台風一過の爽やかな青空となりました。京都のみなさま、ありがとうございました。

みんなねっと 京都大会 第二分科会

「なかなか支援に繋がらない本人と家族の
まるごと支援」 報告

都連理事 高木むつ美

ファシリテーター…松田美枝氏(京都文教
大学臨床心理学部 教授)

発言者…鈴木美帆氏(社会的引きこもりの
本人をケアする家族の集い「みつばちの会」
家族スタッフ)…板垣修平氏(京都これから
「ひきこもり・行きづらさの当事者団体
代表」)…金井浩一氏(相談支援事業所しほふ
あーれ代表・一般社団法人コミュニティ・メ
ンタルヘルス・アウトリーチ協会理事)

引きこもりなど、なかなか支援に繋がら
ない本人をケアし続けている家族がいる。
平均して発症は21、3才。初診まで1年10
ヶ月かかり、落ち着くまでに約13年8ヶ月
がかかっている・3人に一人は通所してお
らず、家族との接触時間が長くお互いに疲
弊している。このような現状で、親亡き後
の不安は90%に達している(松田氏)。

家族は「助けて」と発信している。だが、
現行の社会資源では孤立と、不安を解消す
る手立てがない。最初の一步としての本人
と家族に寄り添う対応が実情に合っていな
いのではないかと感じている(鈴木氏)。

きっかけはしんどさ。引きこもったら出

て行くきっかけをなくした。自己に対する
変なプライドで人に頼れない。自力では何
もできないが、素直になれず現実逃避。ひね
くれて母を攻撃した。後のない37才。母が
倒れて外に出るきっかけになった。自分の
弱さを認め、仲間を作り、生き直している
(板垣氏)。

支援を拒絶し、孤立しているケースに家
族も含めて丁寧に関わり、支援のプロセ
スを当事者を主体にして積み上げて行く
(金井氏)。

心を開いて生き直す。時間ときっかけ、寄
り添うことの大切を思いました。

みんなねっと 京都大会 第四分科会

交通運賃割引の取り組み

都連 副会長 曾田 英夫

みんなねっと京都大会第四分科会は、
「交通運賃割引運動のこれまでとこれから」
身体・知的との格差解消から、障害者のニ
ーズに基づく割引制度を目指して「」をテ
ーマに開催されました。

これまでの運動は、身体・知的との格差
解消を目指して運動を進めてきましたが、
しかし、身体・知的を含めた障害者割引そ
のものの問題―100km以下の割引制限などの
撤廃―の解決を目指していく取り組みが必
要になるとの発言がありました。

具体的な今後の取り組みとしては、①100
km以下の割引制限の撤廃 ②第一種・二種の
区分をなくし、介護者と共に利用した時は
手帳所持者と介護者を共に割引対象にする
こと ③新幹線の特急料金も割引対象にする
ことなどがあげられました。

講師の方が、「国は道路に大変なお金を使
っているが、鉄道の土台とバス路線の維持
に国費の投入を」という発言があり、事業者
と一緒に国に働きかけてはどうかという問
題提起がありました。特に地方におけるバ
ス路線の維持は大切なことです。

ところで、なぜ私たちは交通運賃の障
害者割引を求めるのでしょうか？

もちろん、運賃が安くなれば、少ない収入
の身からすれば安くなるに越したことはあ
りませんが、それよりも運賃が安くなるこ
とによって、当事者の社会参加が促進され
ること、それにより本人の病状が改善に向
かうだろうという事が大きな意味合いを持
ちます。

これからの運動としては、①当事者との
連携 ②身体・知的障害者団体との連携
③鉄道事業者本社のあるブロック、都道府
県連で連携して働きかける ④国土交通省
都との懇談などを検討する。これらの事が
話し合われました。

多摩ブロック家族相談員養成講座報告

都連理事 伊藤 則子

8月30日(土)の10時半から府中市立片町文化センター1階会議室で西村由紀氏をお迎えして「相談の基本」を学びました。

○困っている人に向き合うには

相談する人は「恥ずかしい」ので、馬鹿にされ傷つけられることを恐れて防衛格好つけをします。防衛の仕方は人によって異なり、強がったり、怒りをぶついたりします。それを取り除かないと相談になりません。心を開く心構えを5つに纏めました。

1つ目は「対等」であること

人間として対等だという心構えが大事です。見下した態度をしてはいけません。

2つ目は無条件で受け入れる

正論を言わず、解決する方法を考えます。

3つ目は、わからないことを大切に

唯一無二その人の話として聞く。分かろうとする努力が伝わった時に初めて信頼されます。

4つ目は、できないことを自覚する

人の悩みに別の人が関わることの限界を常に自覚し、聞いて少しでも辛さを少なくしてあげる努力をする。

5つ目は、最後は決めるのは本人

答えは相談しているその人の中にあり、その人が見つけるもので、周りが与えるも

のではありません。

○相談の組み立てと気持ちの受け止め方

相手の話を聞いて問題整理し、助言をするなら最後に控えめに明るめるにする。相談時間の目安は2、30分位。その人を理解するために必要なことは聞き、その人に責任を持つている人に繋げるようにするのが立場をふまえた相談です。

困りごとや悩みから逃げずに考える力、解決できないことを抱えて生きる力、自分の弱さを認めて相談する力が育つて初めてその人は生きやすくなります。自分で乗り越えた成功体験が生きる自信に繋がります。

2025年度第1回多摩ブロック会議・報告

都連理事 中住 孝典

8月30日(土)午後1時半～4時半、府中市立片町文化センター、20単会・33名参加

【都連からの報告】

① 2026年度都予算要望について

○多職種アウトリーチ事業の実効的取り組み ○精神科合併症(特に慢性期)の整備充実 ○患者移送制度の抜本的改善 ○JR、私鉄の100キロ圏内運賃割引への働きかけ ○精神障害者への心身障害者福祉手当、福祉タクシーの支給 ○家族会の公的活動に対する支援等9項目の要望。

② 旧滝山病院事件の経過報告。入院患者の状況、職員数、施設・設備の改

善状況、地域連携室やPSWも導入。都への改善報告義務はあるが、虐待防止委員会の継続的な関与の必要性。

③ 高月病院見学会 11月10日(月)予定

【協議事項】

① 病院家族会交流会は年度内開催予定

② 2025年度単会訪問の確認

③ 家族支援の拡充策について

④ 次回ブロック会議は令和8年2月終わりから3月初めに実施予定

【各単会からの報告】

・小鳩会 40周年を迎え記念事業として講演会「心身障害者の権利について」藤井克

徳氏・11月22日 予定

・サンクラブ多摩 役員の成り手で苦労。

60代2人が入り一挙にデジタル化が進んだ。

・スマイルの会 病氣・高齢化で会員数が減った。「親なき後」をテーマに講演会検討。

・国分寺あゆみ会 ワンストップ相談と言うが、そうでない実態もある。相談事業の整備必要。

・日野いずみ会 毎年、市に対する要望活動、障害福祉課と懇談会を行っている。

その他、多くの家族会から現状の報告等いただきましたが紙面の関係で割愛させていただきます。多くの情報共有ができました。ありがとうございました。

☆講演会のお知らせ☆

○「家族の接し方」

(聴き上手になる方法)

日時 11月1日(土)午後1時半〜4時

講師 高森信子先生

会場 二幸産業・NSP健康福祉プラザ

6階集会室

主催 サンクラブ多摩 申込不要 無料

問合せ 042-371-3380 藤岡

○「日本の精神医療の政策転換について

ベルギーのアウトリーチ移行に学ぶ」

日時 11月3日(日祝)午後1時半〜3時半

講師 氏家憲章氏

(社会福祉法人うるおいの里理事長)

会場 大井町きゅりあん4階

第一特別講習室

申込 品川区かもめ会

090-6190-6186 庄田 無料

○「超短時間雇用の広がり」と今後の課題」

日時 11月8日(土)午後2時〜4時

講師 近藤武夫氏

(東京大学先端科学技術センター教授)

会場 たましんRISURホール第一会議室

主催 立川麦の会 無料

(申込不要・定員90名)

問合せ 042-537-3905 眞壁

○「精神科医療の最近のトピックス」

日時 11月22日(土)午後2時〜4時

講師 田亮介先生(駒木野病院院長)

会場 日野市中央福祉センター

集会室1, 2

主催 日野いずみ会 申込不要 無料

問合せ先 042-592-8963 片岡

○「ふだんからの防災〜精神障害の

ある人の経験から学びあおう」

日時 11月9日(日)午後1時45分〜4時半

講師 山田悠平氏 相良真央氏

(精神障害当事者会ポルケ)

会場 文京シビックセンター3階

会議室AB 要予約 先着順

申込 文京区障害者基幹相談支援センター

03-5940-2903 参加費¥500

(当事者¥100) 当日会場支払い

○「はたらくとは 夢を追うこと」

草むらの会の歴史とこれから

日時 11月21日(金)午後1時半〜3時半

講師 風間美代子氏

(NPO法人多摩草むらの会代表理事、

社会福祉法人草むら理事長)

会場 稲城市地域振興プラザ4階

大会議室

主催 稲穂会 申込不要 無料

問合せ先 090-9243-2644 高野

080-4370-3516 丹治

編集後記

生まれて初めて「みんなねっと」の全国大会に参加しました。台風の影響で新幹線の窓に大雨が降り注ぎ、まるで滝を裏側から見ているような中、6時間も遅れて京都に着きました。急ぎ交流会の会場テルサに向かい、終わる寸前に滑り込み、グループ討論で自己紹介をしたところで終了時間となったのでした。残念でした。

翌日の全大会での高木先生のお話で心に残った言葉は「世の中の尺度を家庭に持ち込まない」「当事者の悩みは社会で認められない事」「家族はありがとう、ごめんなさいを沢山言う事が大切」「家族会でヘルパーステーションをやってよその子や互いの家族を見合うといい」でした。

全体会で、出会いがありました。粕江で娘さんが働いていらつしやう、紹介したい家族がいると、粕江の家族会を探していたとのことでした。ありがたいことです。この出会いを大切にしたいと思います。

家族会の歴史も知り、水中から顔を出したような感じです。色々なお話を聞いて元気が出ました。日本全国で毎日頑張っているしやる家族がいると思うだけで励まされました。来年の全国大会にも是非参加したいと思いました。

都連理事 伊藤則子